

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	唐津市立厳木小学校
1 前年度 評価結果の概要	・施設一体型小中併設校として、「知・徳・体の調和のとれた学校」「楽しさ、元氣、創造力に満ちた学校」「地域に信頼される学校」を目指し、教育活動に取り組んできた。今後も小中連携を回り、社会で活用できる学力と生活力を9年間で身に付けさせるよう、学習内容や児童の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高めていきたい。 ・学校教育目標の達成のため、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきた。特に、地域の方々には、様々な場面で学校教育に関わっていただき、体験から学びを充実させることができた。今後も児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のための取組を行い、地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・開校の1年目であったため、様々な取組を行ったが、時間外勤務時間の削減はなかなか実現しなかったが、職員の働き方改革についての意識は、高まってきている。今後も、職員が心身共に健康に働く
2 学校教育目標	夢に向かって 自ら学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに 未来を拓く 厳木小中学校～
3 本年度の重点目標	(1) 小中連携・学力向上……小中併設校として、9か年の学習内容や児童・生徒の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 (2) 個に応じた教育の充実……児童・生徒一人一人の長所や強みに着目して、多様なニーズを有する子どもたちに対応した学びを実現する。 (3) 認め合い、思いやりをもって行動する子どもの育成……みんなが協力し、自他共のよさを認め合う場面を設定し、自分と他人の権利を尊重できる態度を育てる。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価			主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○唐津の学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.8以上の教師80%以上	・毎学期末に唐津の学びスタイルチェックシートを記入し、指導法を振り返る。課題については重点項目として全職員で共通理解し、改善を図る。				学力向上コーディネーター 研究主任 研究副主任
	○主体的・対話的で深い学びの展開 ○主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると答える児童85%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めたい」と答える児童の割合80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。振り返り活動で出た児童の感想を次時の学習活動に生かす立てを取る。 ・児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を設定し、唐津の学びのスタイルに沿った授業展開ができるようにする。 ・家庭学習の習慣が身につくように、「家庭学習の手引き」を作成したり、「家庭学習ががんばろう週間」を実施したりする。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事やなかよし班の活動に積極的に参加し、異学年との交流を楽しめる児童80%以上。 ○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・月1回のおひさまタイムの実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施 ・部落差別を解消するための学習計画の積極的実践 (学級担任と人・同担者のTT授業など) ・実行委員会や委員会、クラブ、集会などの場において、それぞれの個性や立場を認め合える活動を仕組む。				人権・同和教育担当 道徳推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳授業や人権集会、特別活動等を効果的に活用し、いじめを生まない風土や集団づくりに取り組む。 ○生活問題協議会、アンケートによるいじめの早期発見・早期対応に取り組む。【保護者アンケート90%】	・なかよしアンケート(毎月第1水曜日)を実施し、実施後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。 ・生徒指導協議会で、気になる児童について全職員で共通理解し、対応を考える。 ・QUアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。				教育相談 生徒指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っているについて肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリア教育に取り組み、それぞれの未来への思いを学級で共有することになりたい自分実現につなげる。 ・児童が主体的に取り組む児童会行事を行い、児童の主体性を育む。				特活部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」に肯定的な回答をする児童80%以上	・「健康に良い食事」を意識するように呼び掛ける。また、毎週水曜日の「元気チェック」の食事の面を月末に振り返らせることで望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に取り組む。				保体部
	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	・毎週水曜日に実施する「元気チェック」で生活習慣を振り返らせ、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身につけさせる。				保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・教材をデータベース化したり、校務事務の共有化したりすることで、事務作業の時間を軽減する。 ・ペーパーレス会議を多く設定することで、印刷作業時間の削減や個人情報の適正な管理に役立てる。 ・年度初めや職員研修時に管理職が積極的な年休取得や勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることを伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。 ・小中学校合わせて水曜日の定時退勤日やバースデー年休取得を設定し、互いに声を掛け合う。				教頭 教務
●特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	・全職員を対象とした特別支援教育に関する研修会を年4回行う。 ・配慮を要する児童について随時ケース会議を行い、支援の在り方を協議する。 ・必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門機関と連携し、支援会議を行いよりよい支援に繋ぐ。				特別支援部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組 重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	意見や提言	
◎志を高める教育 ○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成 ○地域での体験活動の推進する中でふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力育成	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 ○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上	・ふるさと自然环境や伝統を学ぶ体験活動にゲストティーチャーを積極的に活用する。 ・体験活動の振り返りを充実させる手立てを工夫していく。地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。				
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○学校だよりを月1回以上発行する。 学校ホームページの更新を定期的に行い、学校教育の情報を公開する。	・学級通信や学校だよりの発行を定期的に発行する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校教育の情報を多方面に発信する。				校長 教頭 事務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------